

平成29年度

事業概要

(平成28年度実績)

山梨県立こころの発達総合支援センター

も く じ

第1部 こころの発達総合支援センター概要

1 沿革	2
2 施設	3
3 組織図・職員構成	5
4 業務内容	6
5 相談・診療の流れ	6

第2部 業務の実施状況

相談支援

1 相談支援体制	8
2 相談件数	8

診 療

1 診療体制	12
2 診療状況	13
3 発達障害医療支援体制整備事業	15
4 ショートケア	16

地域支援

1 市町村療育支援開発事業	18
1) 幼児集団療育	
2) 学齢期療育	
3) 成人グループ	
4) ペアレントサポートプログラム	
2 技術支援	21
1) 関係者コンサルテーション	
2) 市町村療育支援、	
3) 発達障害者支援センター連絡協議会	
4) 地域支援体制サポート事業	
5) 関係機関との連絡調整会議の開催	
6) 会議等への参加	

研修・普及

1 人材育成	27
1) 子どもの心の診療関係者の研修事業	
2) 発達障害研修事業、	
3) 講師派遣	
4) 視察研修受け入れ	
2 調査研究	29
3 広報・普及	29
1) パンフレット等印刷物の発行、	
2) 広報視聴覚機材の提供・貸出	

第1部 こころの発達総合支援センター概要

1 沿革

発達障害者支援法第14条及び第19条に基づき、山梨県立こころの発達総合支援センター設置及び管理条例及び同施行規則により設置された。

平成17年 4月1日 児童福祉施設や学校等において、被虐待児、発達障害児などによる処遇困難事例が増加する中、発達障害の診断、支援を行なうことができる専門機関の設置を県に義務づける発達障害者支援法が施行された。

平成18年 4月1日 山梨県においては、中央児童相談所内に子どもメンタルクリニックが開設されると同時に、障害者相談所内に発達障害者支援センターが設置された。

平成22年1月～8月 子どもの心の問題・医療等の相談の拡充に伴い、クリニックの機能強化が望まれる中、幼児期から成人期に至るまでの相談、診断等を総合的かつ一体的に支援できる体制整備が求められた。これを受け、子どもメンタルクリニックと発達障害者支援センターの再編に向け、庁内検討会・ワーキンググループが設置され、平成23年度「子どもメンタルケアセンター（仮称）」開所に向け検討された。

平成22年8月～12月 山梨県福祉プラザ改修工事とプラザからの団体移転。

平成23年1月～3月 センター開所準備。

平成23年 4月 1日 児童相談所子どもメンタルクリニックと障害者相談所発達障害者支援センターが統合され、山梨県立こころの発達総合支援センターとして開所。

2 施設

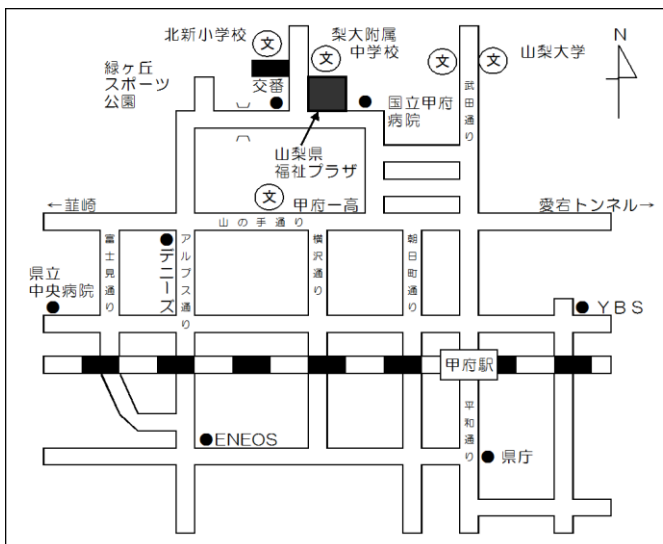
●場所

山梨県甲府市北新一丁目 2-12（山梨県福祉プラザ内）

●建物

鉄筋コンクリート造 4階建（山梨県福祉プラザ）の2階・3階・4階一部

●案内図



《電車》

甲府駅下車 北口から徒歩 20 分

《バス》

甲府駅北口から

【14】 HANAZONO ホスピタル行き

【15】 上帯那行き

【16】 塚原行き

山梨県福祉プラザ前下車

（所要時間 約 6 分）

《車》

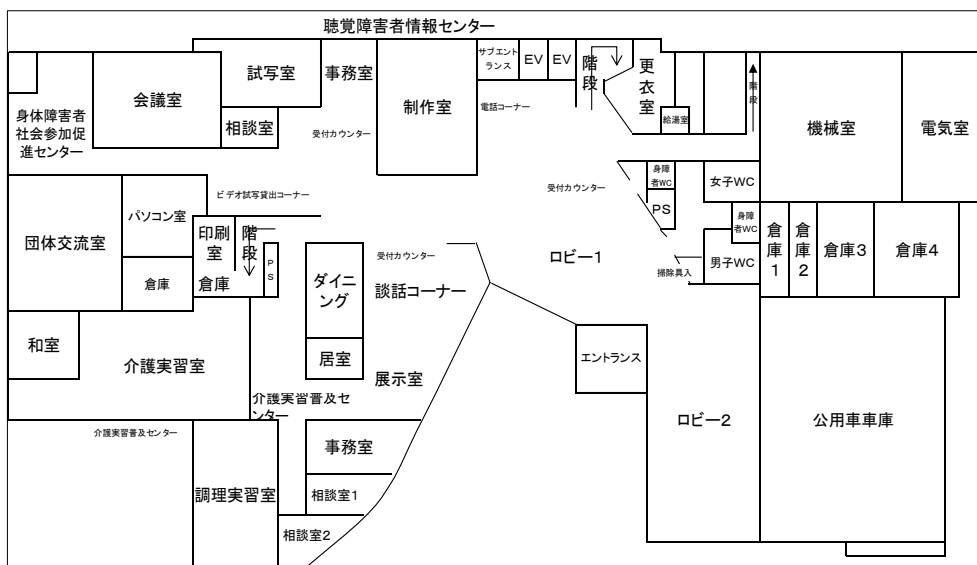
甲府昭和インター利用の場合

アルプス通りを北進

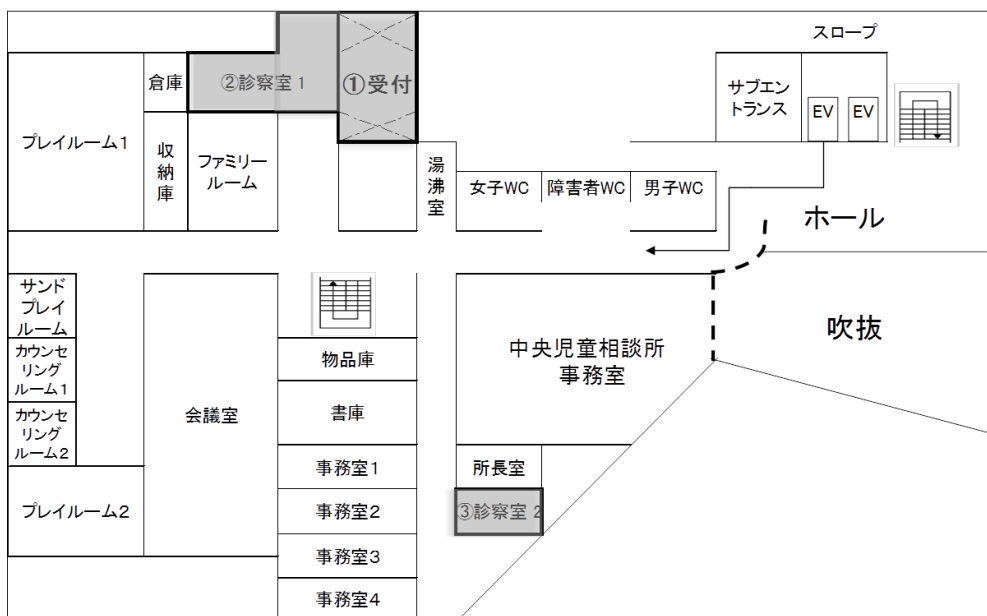
（所要時間約 10 分）

●平面図

【1階】

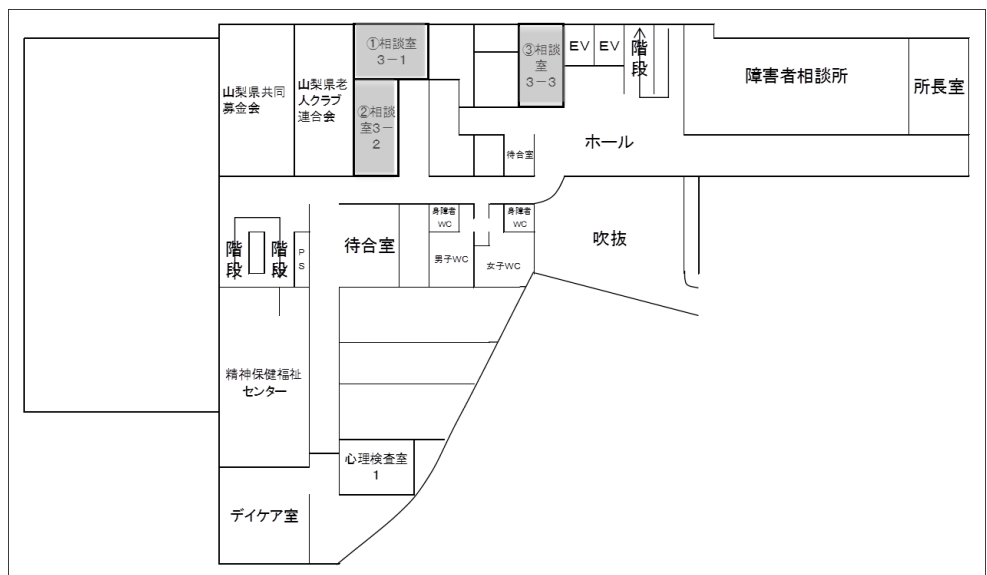


【2階】



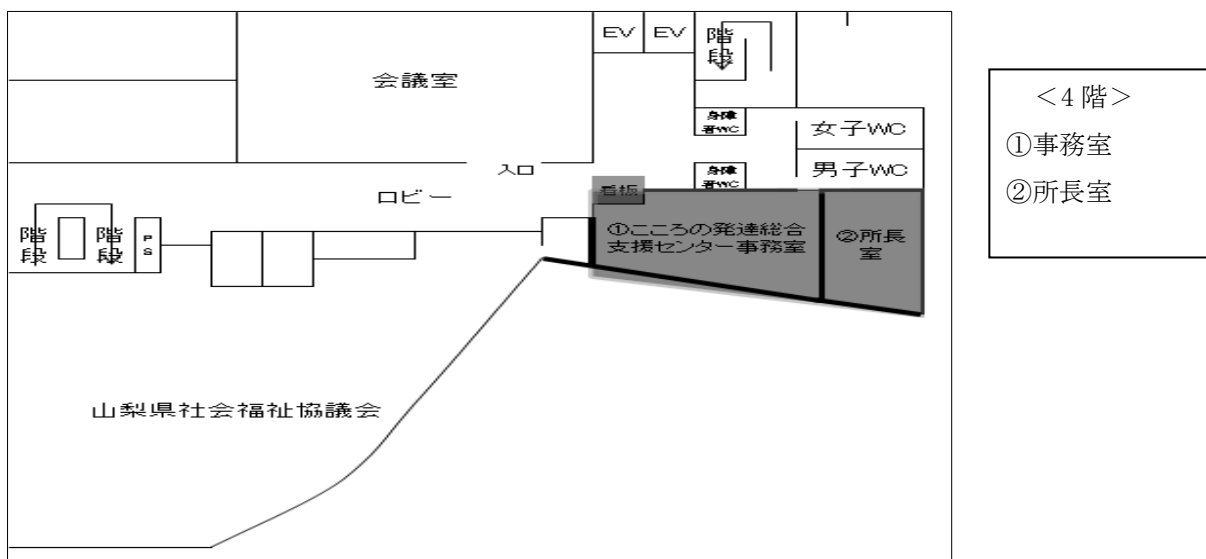
- < 2階 >
- ①受付
 - ②診察室 1
 - ③診察室 2

【3階】

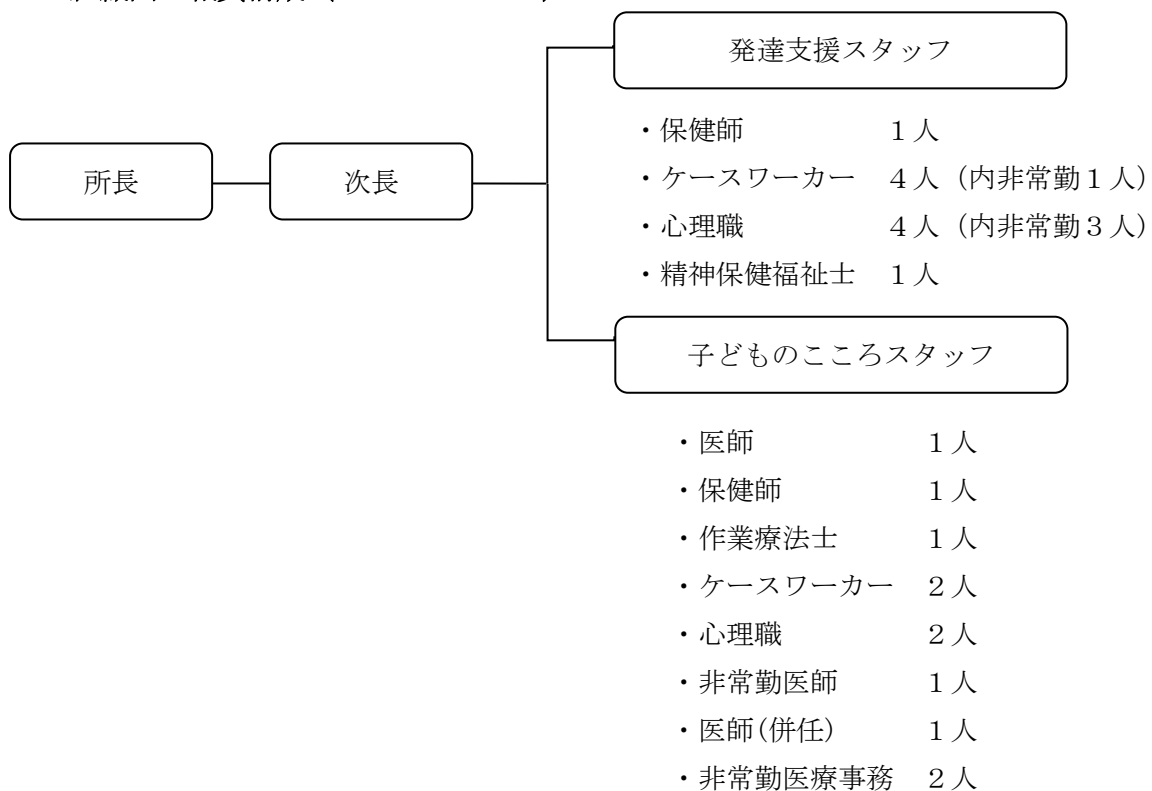


- < 3階 >
- ①相談室 3-1
 - ②相談室 3-2
 - ③相談室 3-3

【4階】



3 組織図・職員構成 (H29.3.31)



4 業務内容

相談支援

発達障害や子どものこころの問題について、日常生活等に関するさまざまな相談を行う。

- 相談
- 発達支援
- 就労支援

診療

発達障害や子どものこころの問題について、精神科医師による診療を行う。

- 診断
- 治療
- ショートケア

地域支援

本人や家族がよりよい地域生活を送れるよう、県内の関係機関と連携を図る。

- 市町村療育支援開発事業
- 技術支援

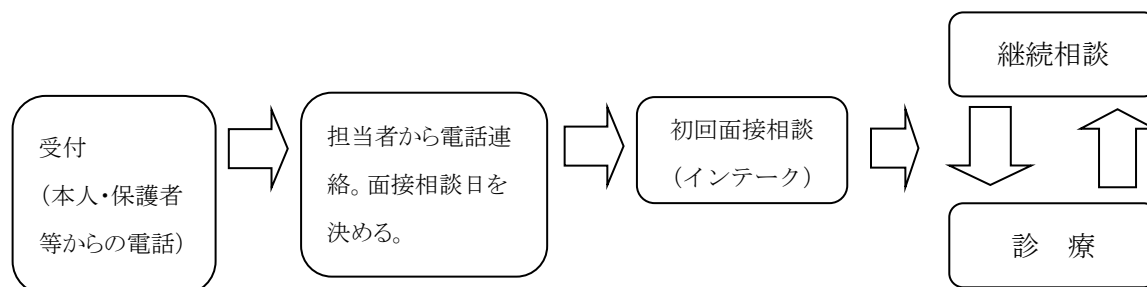
研修・普及

発達障害や児童期・思春期のこころの問題に関するさまざまな研修や調査研究を行う。

- 人材育成
- 発達障害者支援開発事業
- 調査研究
- 広報・普及

5 相談・診療の流れ

本人または保護者等から電話にて受け付ける。その後、担当者から電話をし、相談日を決める。来所による初回面接相談をし、その後は継続相談や診療に繋げる。



●対象

18歳未満の子どものこころと発達に関する相談全般と成人の発達障害に関する相談を受け付けている。

●受付方法

相談・診療は完全予約制。本人または保護者等からの電話で受け付けている。

●相談場所

- ・福祉プラザ内（月～金）
- ・都留児童相談所内（水、金、第2・第4木）
- ・富士ふれあいセンター内（第1・第3火）

●診察場所

- ・（福祉プラザ内）こころの発達総合支援センター甲府クリニック
- ・（都留児童相談所内）こころの発達総合支援センター都留クリニック

●費用

相談は無料。診療・ショートケアは保険診療となる。

第2部 業務の実施状況

相談支援

1 相談支援体制

こころの問題を抱えた児童とその家族や発達障害児（者）とその家族に対して、相談支援、発達支援、就労支援及び情報提供を行った。また、支援関係者に対して助言やコンサルテーションをとおした支援を行った。

相談は予約制とし、福祉プラザ内、都留児童相談所内、富士ふれあいセンター内で実施した。

2 相談件数

平成28年度の相談件数は4,193件で、このうち新規面接相談は、318件であった。

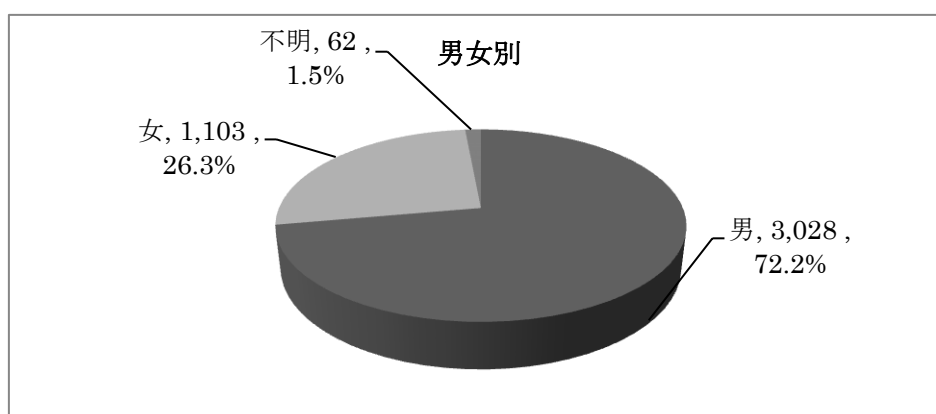
① 相談者数

電話	来所			訪問	関係者コンサルテーション	合計
	甲府	都留	ふれあい			
983	2,193	172	209	33	603	4,193

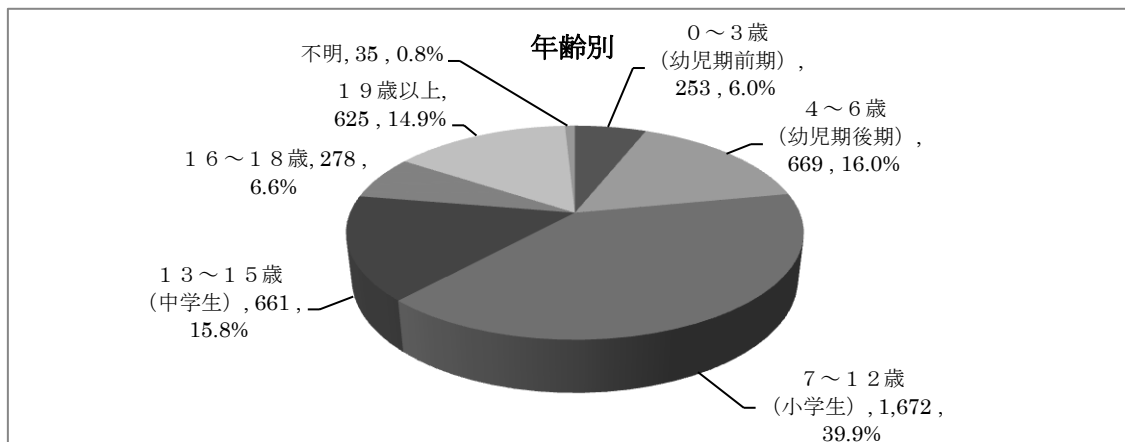
② ケース別

発達障害ケース	子どものこころケース*	*発達障害や発達の問題に関わる相談以外のケース (発達以外の相談であっても発達障害、あるいは発達の問題があるケースはここには含まない)
3,796	397	

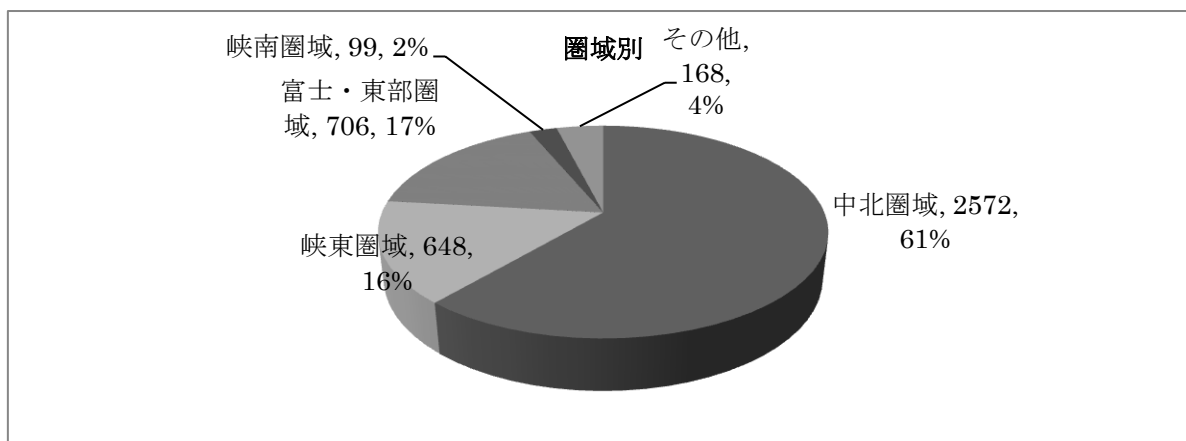
③ 男女別



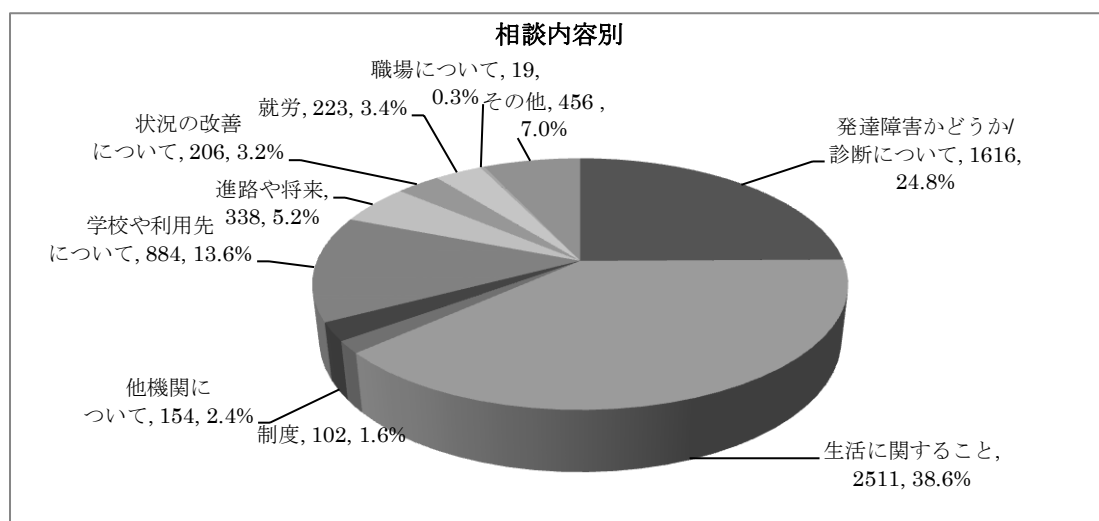
④ 年齢別



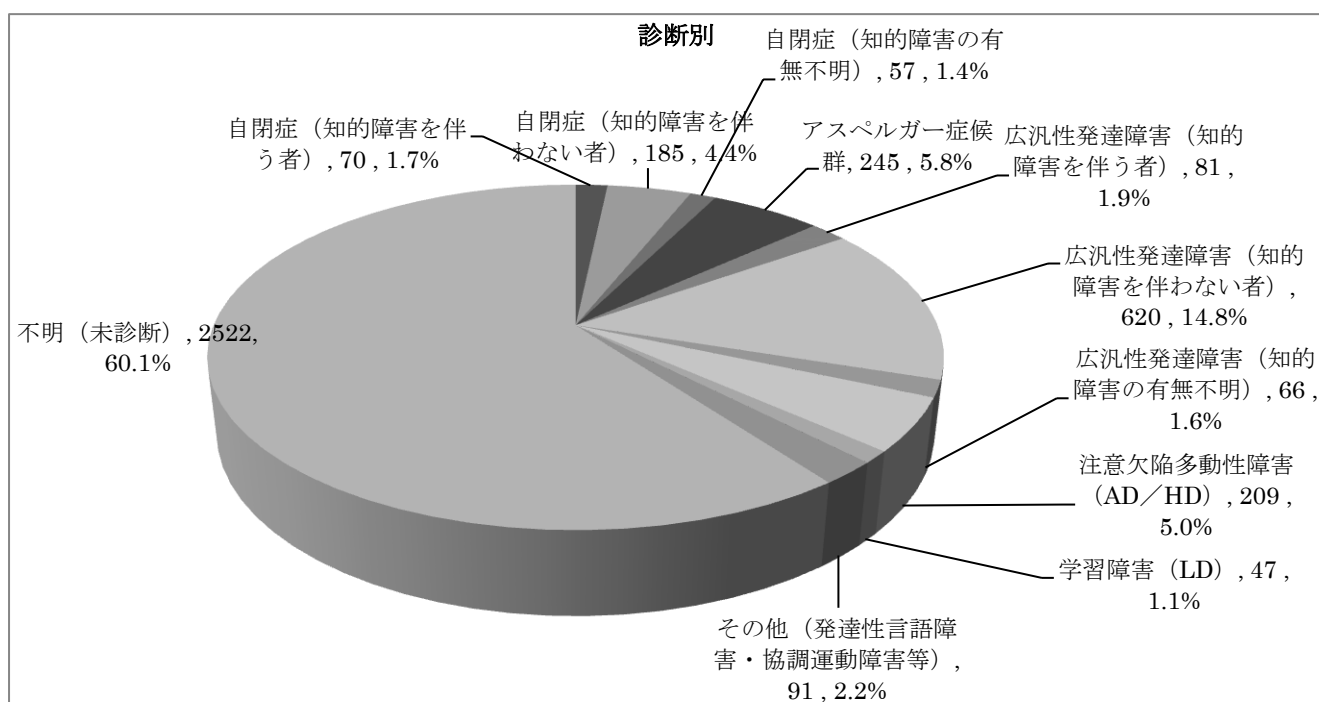
⑤ 圏域別



⑥ 相談内容別



⑦ 診断別

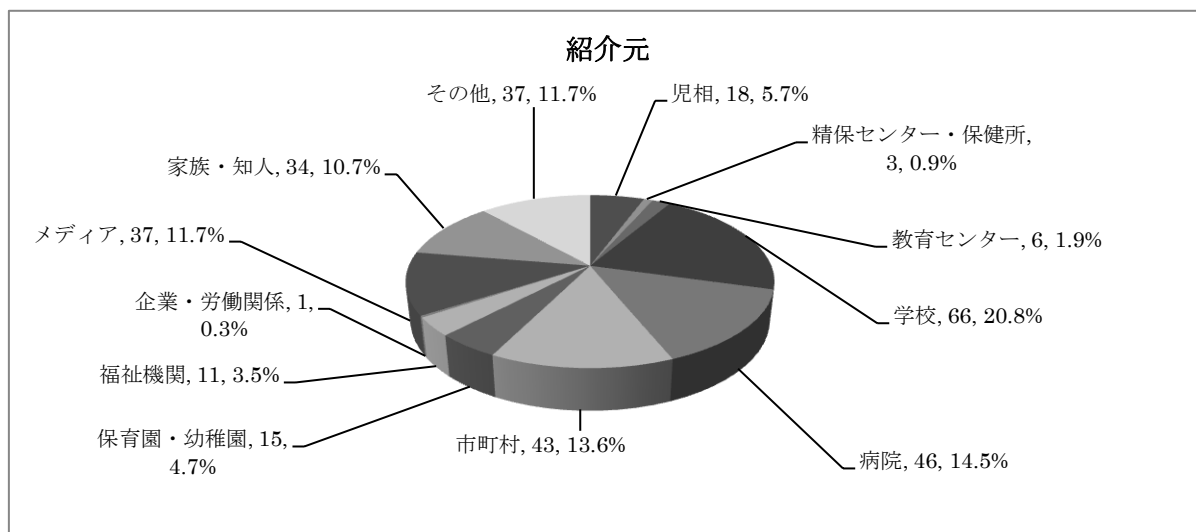


*統計処理にあたって、複数の診断名がある場合には一診断名とし、発達障害の診断を優先した。優先順位は、広汎性発達障害>注意欠如多動性障害>精神遅滞>統合失調症・気分障害>適応障害・摂食障害である。当所での診察以外による診断名については、本人または家族による申告による。

⑧ 新規面接相談の内訳

		合計	ケース別		年齢別					
			発達障害 ケース	子どもの こころ ケース	0～3歳	4～6歳	小学生	中学生	16～ 18歳	19歳 以上
H28年度	甲府	273	240	33	30	44	119	29	11	40
	都留	25	21	4	2	0	15	5	3	0
	ふれあい	20	17	3	3	5	7	2	1	2
	合計	318	278	40	35	49	141	36	15	42
前年度		310	258	52	33	56	119	48	11	43

⑨ 新規面接相談の紹介元



診 療

1 診療体制

平成18年度から平成22年度まで各児童相談所で運営していた子どもメンタルクリニックの機能を引き継ぎつつ、相談部門との連携強化を図ることにより、発達障害の専門医療機関及び子どものこころの診療拠点医療機関として、より質の高い医療の提供を目指し、県内2ヶ所(甲府、都留)で精神科クリニックを開設。予約制で診療を行うとともに、H24.1月からは甲府クリニックでショートケアを実施した。

また、県内の診療対応力の向上と受け皿の充実を図ることを目的として、発達障害及び子どものこころの診療に携わる他の医療機関との連携・情報交換、研修生の受け入れを行っている。

【甲府クリニック】場 所 福祉プラザ2階
 管理者 金重 紅美子
 診療時間 午前9時30分から午後12時30分

(平成28年4月～平成29年3月)

担当医	月	火	水	木	金
片山知哉		○	○	○ (第1・3)	
金重紅美子	○				○
小石誠二				○	
下山 仁	○ ※1				
上村拓治				○ (第2・4)	
江間彩子		○ (第1・3)			

※1：下山医師の診療は5月23日で終了

【都留クリニック】場 所 都留児童相談所 2 階

管理者 片山 知哉

診療時間 午前 9 時 30 分から午後 12 時 30 分

	月	火	水	木	金
片山知哉				処方のみ (第 2・4)	○
金重紅美子			○		

2 診療の状況

●受診者総数推移 (H23～H28)

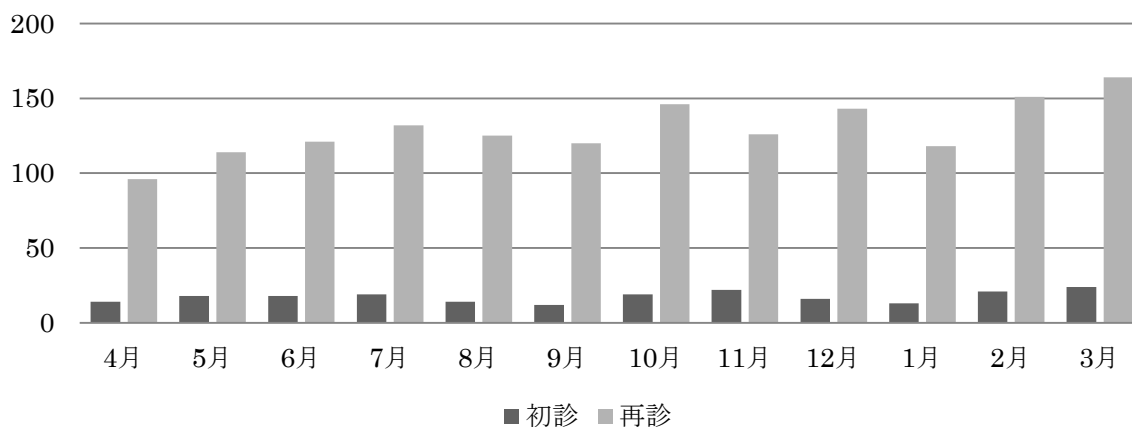
年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28
初診	278	296	302	218	215	257
再診	1,120	1,469	1,655	1,712	1,877	2,021
ショートケア	10	43	28	22	13	21

●受診者と診療形態 (H28 年度)

【甲府クリニック】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
初診	14	18	18	19	14	12	19	22	16	13	21	24
再診	96	114	121	132	125	120	146	126	143	118	151	164

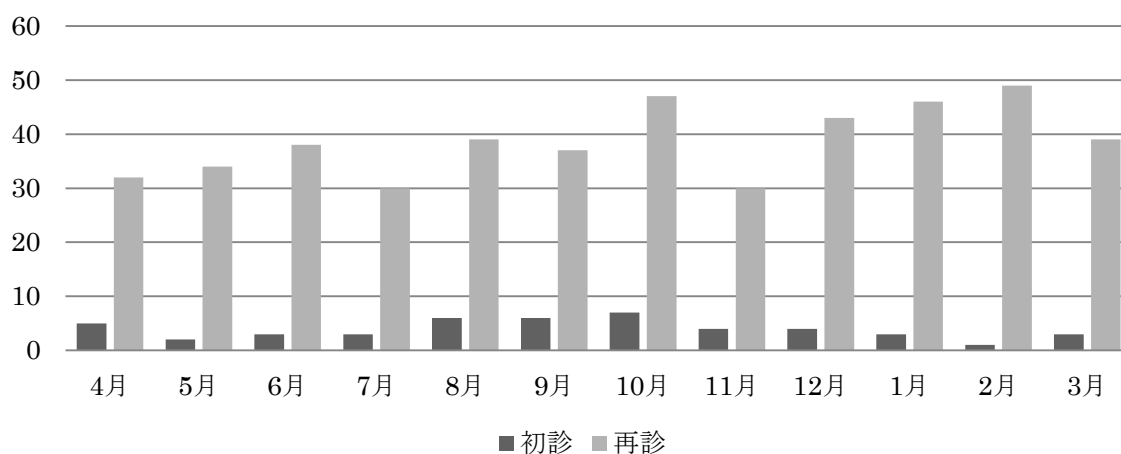
甲府クリニック



【都留クリニック】

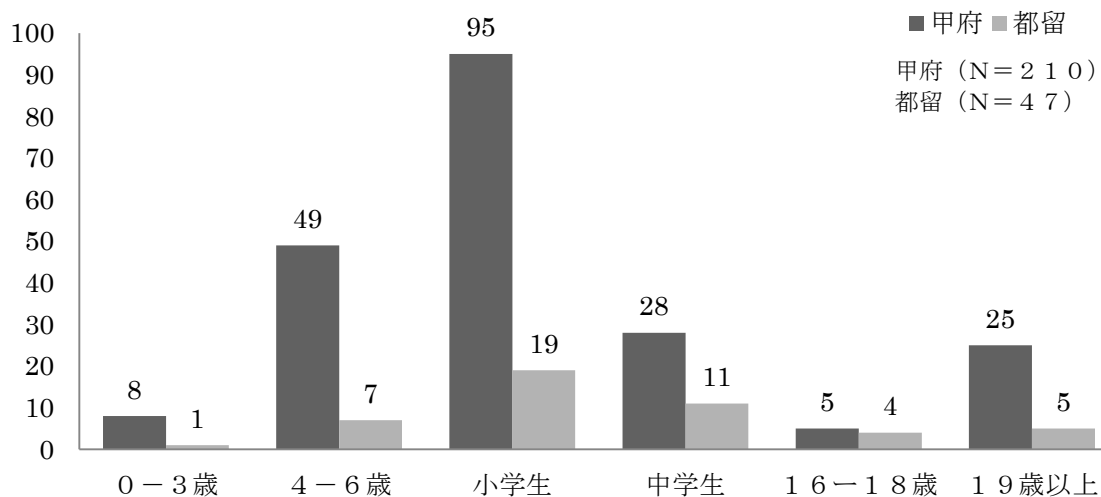
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初診	5	2	3	3	6	6	7	4	4	3	1	3
再診	33	34	38	30	39	37	47	30	43	46	49	39

都留クリニック



●H28 年度初診者の状況

甲府・都留クリニック 年齢帯別内訳



診断分類別割合

診断名		甲府		都留		合計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
心理的発達の障害 (F8)	広汎性発達障害 (F84)	127	60.5%	25	53.1%	152	59.1%
	学習障害 (F81)	10	4.8%	1	2.1%	11	4.2%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
小児期および青年期 に通常発症する行動 および情緒の障害 (F9)	注意欠如多動性障害 (F90)	10	4.8%	1	2.1%	11	4.2%
	その他	35	16.7%	13	27.7%	48	18.7%
精神遅滞 (F7)		2	0.9%	1	2.1%	3	1.2%
精神及び行動の障害 (F6)		5	2.4%	2	4.3%	7	2.7%
神経症性障害 (F4)		14	6.7%	3	6.5%	17	6.6%
統合失調症圏 (F2)		5	2.4%	1	2.1%	6	2.7%
気分障害 (F3)		1	0.4%	0	0.0%	1	0.3%
生理的障害および身体的要因に関連した行動症候 群 (F5)		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
診断保留		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
その他		1	0.4%	0	0.0%	1	0.3%
合計		210	100%	47	100%	257	100%

*統計処理にあたって、複数の診断名がある場合には一診断名とし、発達障害の診断を優先した。優先順位は、広汎性発達障害>注意欠如多動性障害>精神遅滞>統合失調症・気分障害>適応障害・摂食障害である。

3 発達障害医療支援体制整備事業

発達障害の早期把握・早期支援を推進するために、発達障害のあるこどもが地域で安心して医療を受けることができるよう、こころの発達総合支援センターを中心とした医療ネットワークの構築と地域の小児科医を対象とした人材育成を行う。

1) 事業期間

平成 27 年度～29 年度(3 カ年)

2) 事業内容

(1) 検討委員会(名称：山梨県こどもの発達を考える医療連携会議)の開催

ア 年間 3 回開催

イ 内容

・診療における現状・課題の整理及び共有

- ・症例検討を通じた小児科医の人材育成
- ・診療マニュアルの作成
- ・医療連携パスの開発及び医療ネットワーク構築の検討

ウ 検討委員構成

(ア) 検討委員 山梨県内小児科医 20 名

(イ) 事務局 ころの発達総合支援センター

(2) 研修会の開催

ア 年間 1 回開催

イ 対象 山梨県内の小児科医

<実績>

	日時	内容
検討委員会	平成 28 年 5 月 18 日 (水)	講義・症例検討・意見交換
	平成 28 年 9 月 28 日 (水)	症例検討 (提供：ここセン)・意見交換
	平成 28 年 12 月 7 日 (水)	症例検討 (提供：勤務医)・意見交換
研修会	平成 29 年 1 月 20 日 (金)	講演テーマ「日常診療における、幼児期の発達障害の診察手続き」
		講師：横浜市西部地域療育センター 所長 今井美保先生

4 ショートケア

ころの問題や発達特性などをもち、不登校等社会に適応しにくい状況をきたす対象者に対して、心身の健康維持を図ること、社会生活を営む上で必要な生活技能や適応能力の獲得と向上を図ることを目的として行った。

1) 対象

当センター甲府クリニックに通院中で、かつ、医師が必要と認めた者。

2) ねらい

長期的な治療プログラムとして位置づけ、安心して参加できる社会的な場を広げることとそのきっかけづくり

3) 内容

本人向けプログラムと家族講座の実施

●本人向けプログラム

- ・身体プログラム：呼吸法、ストレッチ、ヨガ ほか
- ・ソーシャルプログラム：創作、季節イベント、ゲーム、コミュニケーションスキル ほか

●家族講座

テーマ：体調管理（睡眠、栄養、運動）、生活管理（生活設計、家族関係）、
将来に向けて（情報収集のしかた、本人との相談の進め方）

<実績>

月1回 月曜日 13:00~16:00	実施期間	実施回数	実参加者数	延参加者数
	H28.6月~H29.2月	9	4	21

地域支援

1 市町村療育支援開発事業

年齢や障害特性に応じた支援プログラムを開発し、幼児期から成人期までの支援を行った。

1) 幼児集団療育

子どもが楽しい集団活動を体験するとともに、保護者が子どもの発達の特徴を理解し子どもに合った対応方法を知ることがを目的に、幼児集団療育を実施した。併せて、支援プログラムの開発、市町村保健師や保育士・幼稚園教諭等支援者の見学を受け入れ研修の場としても提供した。

(1) ころころグループ

- ①対象：当センターに来所している幼児とその保護者で、集団活動に参加希望があり、参加目的を共有でき、見学者の受け入れを理解できる保護者。
- ②ねらい：子どもの発達の特徴への気づき及び子育て支援、集団場面における発達評価、市町村モデルのプログラム開発を行う。
- ③内容：親子参加型療育と親ミーティング
- ④回数：1コース7回 年5コース

<実績>

	実施期間	実施回数	実参加者数 (親子数)	延参加者数 (延親子数)
1クール	H28.5/13～6/17	7	4	21
2クール	H28.9/9～10/14	7	4	19
3クール	H29.1/13～2/17	7	6	35
年長1クール	H28.5/11～6/15	7	5	25
年長2クール	H29.1/25～2/8	4	6	14

(2) ぴよんぴよんグループ

- ①対象：ころころグループに参加した幼児とその保護者で、引き続き参加希望があり、参加目的を共有でき、見学者の受け入れを理解できる保護者。
- ②ねらい：継続的な発達評価と子育て支援、支援機関・者の人材育成
- ③内容：親子参加型療育と親ミーティング
- ④回数：年5回

<実績>

	実施日	参加者数（親子数）
1回目	H28. 9/21	3
2回目	H28. 10/19	4
3回目	H28. 11/16	4
4回目	H28. 12/21	4
5回目	H29. 2/15	4

(3) わくわくグループ

- ①対象：ころころグループに参加したことのある年長児とその保護者または昨年度わくわくグループに参加した現在小学校1年生の子どもとその保護者。
- ②ねらい：就学・就学後の支援
- ③内容：《交流イベント》子どもとその保護者との交流会
《短期療育グループ》療育と親ミーティング
- ④回数；短期療育グループ 1コース4回

<実績>

	実施期間	実施回数	実参加者数（親子数）	延参加者数（延親子数）
交流会	H28. 7/27	1	15	15
1クール	H28. 11/11～12/7	4	8	21

(4) 幼児集団療育への見学受け入れ

- ①対象：関係機関職員
- ②ねらい：技術支援
- ③内容：療育グループの見学参加

<実績>

延人数	主な見学者
6	市町村保健師、小児科医師

2) 学齢期集団療育

本人たちの特性を生かした活動を通して充実感や自己肯定感を高め、他者との交流に関心を持つことを目的として実施した。

また、子どもグループと並行して親グループのプログラムを実施し、日頃の子育ての悩みや困りごと等について語り合う場を設定した。

(1) のびのびグループ

- ①対象：小学生（1年～3年）とその保護者
- ②ねらい：発達特性の評価と保護者の気づきへの支援
- ③内容：《子どもグループ》グループワークとアクティビティ
《親グループ》グループワークとレクチャー

<実績>

実施期間	実施回数	実参加者数 (実参親子数)	延参加数 (延参加親子数)
H28. 6/6、8/8、10/17、 10/31、11/14、11/28、 12/12	7	6	16

(2) さんさんサークル

- ①対象：小学生(4年～6年)とその保護者
- ②ねらい：同属集団の中で安心できる居場所の提供
- ③内容：《子どもグループ》グループワークとアクティビティ
《親グループ》グループワークとレクチャー

<実績>

実施期間	実施回数	実参加者数 (親子数)	延参加者数 (延親子数)
H28. 6/27、9/26、H29. 1/23	3	7	21

(3) 友遊サークル

- ①対象：中学生とその保護者
- ②ねらい：同属集団の中で楽しく過ごす経験と交流を目指す。また、次へのステップのガイダンス
- ③内容：
H28年度 未実施

3) 成人グループ

- ①対象：個別相談を継続している高等教育機関在籍の学生とその保護者
- ②ねらい：就労準備性の向上及び自己理解の促進、本人の現状（就労準備段階）を家族が理解し必要な支援ができるよう促す
- ③内容：《学生》講義・グループワーク
《保護者》家族支援プログラム

<実績>

実施期間	実施回数	実参加者数	延べ参加者数
H29.2月～H29.3月	3	5	6

4)ペアレントサポートプログラム

- ①対象：子ども（小学校低～中学年）のこころの問題や発達障害等で養育上の悩みを抱える保護者及び市町村保健師等の職員で親支援に関わっている者。
- ②ねらい：子どもへの理解を深め、自ら問題に対応できる具体的な育児方法を学ぶことにより、子どもとの心地よい関係をつくり、二次的な問題を予防することを目的とする。また、人材育成とペアレントサポートプログラムの開発・検討を行う場として、一部地域の関係職員への公開の研修も兼ねる。
- ③内容：子どもの行動分類、問題解決スキル、ストレスマネジメントなどを含むペアワークを取り入れたグループワーク
- ④講師：えじそんくらぶ 代表 高山恵子先生

<実績>

実施日	内容	実参加者数	
		保護者	関係職員
平成28年6月15日	「子どもとの心地よい関係をつくるために」	9	6
平成28年7月13日	「コミュニケーションのコツと心が楽になる考え方」	9	2
平成28年8月31日	「第1回～第2回目のふりかえり」	6	2
平成28年9月14日	「気持ちをつたえる伝え方・ふりかえりとセルフワーク」	9	2

2 技術支援

1) 関係者コンサルテーション

医療、保健、福祉、教育、就労等の支援関係者への助言やコンサルテーション等をおして地域の環境調整や技術支援を行った。平成28年度の関係者コンサルテーションの件数は603件である。関係機関の内訳は次のとおりである。

関係機関別									合計
保育所・幼稚園	小・中・高等学校	特別支援学校	専門学校・大学	福祉関係機関 入所・通所施設、	就労関係機関	行政機関	企業	その他	
29	224	10	4	58	34	224	8	12	603

※その他は、医療機関、団体等

2) 市町村療育支援

発達障害児の早期発見早期支援体制を構築するため、山梨市をフィールドに幼児健康診査や支援のあり方を検討した。

回数	開催日
第1回目	平成28年 7月15日
第2回目	平成28年11月25日
第3回目	平成29年 3月10日

3) 発達障害者支援センター連絡協議会

地域の発達障害児(者)に対する総合的なサービスの提供を行うため、各関係機関(医療・保健・教育・福祉等)の取り組みや課題について共有し、効果的な連携等の在り方について協議した。

開催日	参加機関	協議事項
平成28年 6月27日	42機関	①平成27年度事業報告及び平成28年度運営方針について こころの発達総合支援センター 副主幹 上田美穂 ②講義「発達の偏りと支援の基礎～正確なアセスメントの重要性」 こころの発達総合支援センター 所長 片山知哉

4) 地域支援体制サポート事業

発達障害者地域支援マネージャーを配置し、市町村、保育所、学校、障害者相談支援事業所等が発達障害(児)者の特性に沿った支援ができるよう、地域支援機能の強化を図った。

(1) 発達障害者支援検討会議の参加

各保健福祉事務所と連携し、圏域内の支援体制の整備を図るため、圏域やモデル市町村開催の会議に出席した。

開催日	会議名
平成 28 年 7 月 14 日	峡南圏域発達障害者支援検討会議
平成 28 年 8 月 1 日	峡東地域発達障害者支援検討会議
平成 28 年 8 月 24 日	富士・東部圏域発達障害者支援検討会議
平成 28 年 8 月 25 日	中北地域発達障害者支援検討会議
平成 28 年 9 月 9 日	第 2 回発達障害者支援担当者会議
平成 28 年 10 月 7 日	第 2 回笛吹市発達障害支援関係機関連絡会議
平成 28 年 11 月 28 日	第 1 回峡東地域発達障害者支援検討会議 実務者会議
平成 28 年 12 月 8 日	発達障害者支援に係る市町村等行政担当者会議・研修会
平成 29 年 2 月 3 日	第 3 回発達障害者支援担当者会議
平成 29 年 2 月 21 日	第 3 回笛吹市発達障害支援関係機関連絡会議
平成 29 年 2 月 27 日	第 2 回峡東地域発達障害者支援検討会議 実務者会議

(2) 発達障害者サポーター養成・派遣

- ①目的: 学校不適應などにより社会参加できていない発達障害のある人に対し、「発達障害者サポーター」を派遣し、社会参加・就労準備の機会を作る。
- ②サポーター対象者: サポーターは山梨県内の教育、福祉、心理などを専攻している短大、大学、大学院生、または社会人で障害福祉に関して一定レベルの知識・理解を有している者
- ③ サポーター派遣対象者: こころの発達総合支援センターの相談者で、相談相手を必要としている思春期から青年期ケースで当事業の必要性が認められた者
- ④ 内容: サポーター養成、サポーター派遣

< 実績 >

●サポーター養成

人数: 県内の教育、福祉などを専攻している大学生等

新規: 5 名 (大学生 5/男性 0、女性 5)

継続: 4 名 (大学生 3、社会人 1/男性 1、女性 3)

研修

開催日	内容	講師	参加人数
平成 28 年 9 月 16 日	発達障害者サポーター事例の検討 発表者: 発達障害者サポーター	スーパーバイザー 心理臨床オフィス・ ルーエ 深沢 孝之	3 名

●スーパーヴィジョン

- ・サポーターから報告された内容に対して、事業担当が必要に応じアドバイスを行った。
- ・当センターの相談担当者とサポーターが直接会い、アドバイスを行う仕組みを作った。
- ・養成研修にてサポーターに活動経過を発表してもらい、スーパーヴィジョンを受ける機会を作った。

●大学との連携

- ・大学の学生向け教育ボランティアガイダンスへ参加し、当事業の案内を行った。
- ・サポーター活動が「社会参加実習」の単位として認定された。

●サポーター派遣

人数：当センターの学齢期後期から青年期ケース 4 名
(男性 1 名、女性 3 名/青年期)

派遣回数：27 回

派遣（活動）内容：

- ・「学習支援」：宿題やレポート作成の援助など
- ・「余暇支援」：映画を観に行くなど
- ・「相談支援」：対人関係や進路の悩みを聴き一緒に考える
- ・「生活支援」：公共交通機関の利用の仕方を学ぶ
- ・「学内支援」：授業の出席状況や履修登録などの確認

5) 関係機関との連絡調整会議の開催

当センター主催の会議開催により情報交換や事例検討を行なった。

(1) 総合教育センター特別支援教育部との連絡調整・支援検討会議

開催日	内容
平成 28 年 4 月 11 日	所属概要について情報交換
平成 28 年 7 月 12 日	学習困難児の支援に関する事例検討・就学手順に関する講義
平成 28 年 10 月 11 日	学習困難児の支援に関する事例検討
平成 28 年 12 月 13 日	学習困難児の支援に関する事例検討・教科学習に関する講義
平成 29 年 2 月 14 日	教育課程に関する講義

(2) 就労支援関係機関との相談・支援定例会議

開催日	内容
平成 28 年 6 月 20 日	情報交換と連絡調整

(3) 子どもの心の診療に関わる医療と福祉の連携会議

開催日	参加機関	内容
平成 28 年 6 月 10 日	7 機関	情報交換と連絡調整
平成 28 年 11 月 18 日	7 機関	情報交換と連絡調整
平成 29 年 2 月 10 日	7 機関	情報交換と連絡調整

6) 会議等への参加

(1) 教育関係

教育機関関係者との事例検討等を踏まえた連携会議は、年間を通じて随時行われ、それぞれの担当者が出席した。

(2) 就労関係

就労機関関係者との個別事例検討等を踏まえた連携会議は、年間を通じて随時行われ、それぞれの担当者が出席した。

開催日	会議名
平成 29 年 2 月 1 日	精神障害者・発達障害者雇用支援連絡協議会

(3) 医療関係

医師による事例検討会やネットワーク会議に出席した。

開催日	会議名
平成 28 年 7 月 14 日	「子どもの心の診療ネットワーク事業」会議
平成 29 年 1 月 27 日	「子どもの心の診療ネットワーク事業」会議

(4) 母子保健関係

市町村等母子保健体制の充実に向けて、講義や事例検討への支援、情報交換等を行った。

開催日	実施機関
平成 29 年 2 月 27 日	中北保健福祉事務所峡北支所 平成 28 年度母子支援力向上研修会（講義・事例検討）

(5) 発達障害者支援センター関係

全国及び関東ブロックの会議等に参加した。

開催日	会議名
平成 28 年 6 月 3 日・4 日	発達障害者支援センター全国連絡協議会 第 1 回発達障害者支援センター関東ブロック連絡会
平成 28 年 10 月 28 日・29 日	第 2 回発達障害者支援センター関東ブロック連絡会
平成 29 年 1 月 31 日	第 3 回発達障害者支援センター関東ブロック連絡会

研修・普及

1 人材育成

1) 子どもの心の診療関係者の研修事業

(1) 子どもの心の診療関連職種専門研修

*小児科医や精神科医等専門職を対象

日時	内容	講師	参加者数
平成 28 年 11 月 2 日	子どもの権利を守る法制度	永野・山下法律研究所 山下 俊雅	32
平成 28 年 11 月 4 日	心理アセスメント概論 -発達障害児者の場合-	横浜市総合リハビリテーションセンター児童発達支援事業所 ピース新横浜 園長 日戸 由刈	24

(2) 子どもの心の総合支援研修

*子どもの心の診療に関わる専門職対象

日時	内容	講師	参加者数
平成 28 年 11 月 9 日	統合失調症の前駆期	東邦大学 精神神経医学講座 水野 政文	42

(3) 児童思春期精神医学専門研修

*小児科医、精神科医、関係専門職が対象。

①児童精神医学セミナー

週 1 回こころの発達総合支援センター内で開催した。

内容は所長による精神医学の講義、および症例検討会。症例検討会のうち数回は外部からスーパーバイザーを招いて行った。

②臨床研修受け入れ

医学部学生、臨床研修医並びに小児科医の研修の受け入れ。

山梨大学医学部臨床研修医	： 1 名	1 回/年
山梨大学医学部小児科	： 1 名	2 回/月
一宮温泉病院小児科	： 1 名	1-2 回/月
あけぼの医療福祉センター小児科	： 1 名	1-2 回/月
くまべ小児科 小児科医	： 1 名	1 回/年

(4) 家族支援研修会

日時	内容	講師	参加者数
平成 28 年 8 月 29 日	発達障害を持つ方の家族への支援について	NPO 法人えじそんくらぶ 代 表 高山 恵子	71

2) 発達障害研修事業

* 発達障害児者の支援に関わる専門職を対象

(1) 発達障害基礎研修

日時	内容	講師	参加者数
平成 28 年 5 月 16 日・ 6 月 20 日 (1 コース 2 回)	健康増進課主催研修へ協力 母子保健従事者研修会「発達 の気になる子の早期把握 早期支援に関する基礎研 修」	所長及び幼児スタッ フ こころと育ちの相談 室 所長 中嶋彩	37
平成 28 年 11 月 28 日・ 11 月 29 日 (2 回)	子育て支援課主催研修へ協 力 発達支援特別研修会「発達 が気になる子への関わり方 ～発達障害の基本的理解と 支援のヒント～」	幼児スタッフ	79
平成 29 年 1 月 16 日・2 月 6 日 (1 コース 2 回)	集団療育の方法論 「発達段階とカリキュラム 構成」「グループ支援の基 本的な方法論」	所長及び幼児スタッ フ こころと育ちの相談 室 所長 中嶋彩	58

(2) 発達障害専門研修

日時	内容	講師	参加者 数
平成 28 年 8 月 9 日	自閉症スペクトラムの発 達段階に基づく支援～学 齢期を中心に～	横浜市総合リハビリテ ーションセンター・児童 発達支援事業所ぴーす 新横浜 園長 日戸由刈	146

(3) 発達障害就労支援研修

日時	内容	講師	参加者数
平成 29 年 1 月 31 日	① 就労を見据えたアセスメントと関わり ② 就労に関する福祉サービス・制度と支援機関の概要 ③ グループワーク	① こころの発達総合支援センター 技師 依田匡平 ② こころの発達総合支援センター 所長 片山知哉	51

3) 講師派遣

関係機関からの要請に応じて、当センターのスタッフを講師として派遣した。

派遣先	箇所数	延べ参加人数
教育関係	3 箇所	235
保健関係	2 箇所	55
福祉機関	3 箇所	180
医療機関	1 箇所	140
その他	2 箇所	95
合計	12 箇所	705

4) 視察研修受け入れ

H28 年度は視察研修の受入はなかった。

2 調査研究

1) 平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業（身体・知的等障害分野））「発達障害児者等の地域特性に応じた支援ニーズとサービス利用の実態の把握と支援内容に関する研究」（H28-身体・知的-一般-001）

山梨市を対象として分担研究を行い、報告した。

2) こころの発達総合支援センターにおける学習困難児の支援について

: 平成 28 年度山梨県社会福祉研究発表会

3 広報・普及

1) パンフレット等印刷物の発行

こころの発達総合支援センターのパンフレット作成し、各関係機関や研修等の機会に配布している。また、こころの発達総合支援センターのホームページに利用に

関する案内や一般向けの研修案内、平成 27 年度業務概要等を掲載した。

2) 図書と視聴覚教材の貸出

(1) 貸出図書

平成 23 年 4 月より、図書貸し出しを行っている。

対象は、主に保護者・関係機関職員・学生などである。

全蔵書数 539 冊であり、年度内貸し出し数は延べ 57 冊である。

貸出図書 全蔵書数

1 分類	概論・事典・法律	115
2 分類	支援・指導・教育	202
3 分類	就労	7
4 分類	心理・アセスメント・診断	56
5 分類	雑誌 4 種	0
6 分類	その他	159
合計		539

(冊)

平成 28 年度新規納入図書数・・・ 78 冊

平成 28 年度貸し出し数・・・・・・ 57 冊

月別貸出数

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
2	12	0	5	2	2	3	2	0	8	15	6	57

(冊)

(2) 視聴覚教材

発達障害関連 DVD・・・・・・ 13 本